

西村さんがトンネル建設の技術や歴史などについて話した



トンネル建設語る

松中・深志
山岳部OB会

西村清亮さん講演

松中・深志山岳部OB会(二木昭至会長)は四日、松本市中央四の県松本勤労者福祉センターで、第六回公開講演会を開いた。松本深志高校山岳部OBで、四十年にわたってトンネル建設に携わった西村清亮さん(六四)が、掘削技術の進歩や現場の苦労などを話した。西村さんは今年三月ま

で、総合建設業の熊谷組本社で、土木事業本部統括部長を務めていた。現場に出ていた二十九年間で十六本のトンネル建設にかかわり、合計二十六基を掘削した。「トンネル掘削は順調に進んで月八十呎。一年間に一きだから、かなり掘った」と胸を張った。

西村さんが入社した昭和四十年代は、地上と同じ方法で測量しており、「誤差が四呎も出るものがしょっちゅうあった」と振り返った。現在は人工衛星を使った測量で、「当時は五、六人で二カ月かかった作業を、今は

三人で三十分でできてしまう」と語った。

昭和五十五年にナトムという吹き付けコンクリート工法が開発され、大きな断面を掘削できるようになったことなど、技術的な進歩についても分かりやすく説明した。

長野新幹線の五里ヶ峰トンネル(千曲市―上田市)の工事では、一カ月二百八十一呎を掘り進むという記録を達成した。平成七年度の土木学会技術賞を受賞した同工事の掘削戦略も解説し、約百人の聴講者は感心しながら聞き入っていた。

(柳 純一)

松中・深志山岳部OB会 第6回公開講演会

入場無料

山屋が語る

熊谷組山岳トンネル物語

日時：2009年7月4日(土) 14:30～16:30

場所：松本勤労者福祉センター

2階 第2会議室

(松本市中央4-7-26 TEL0263-35-6286)



NISHIMURA Seisuke

講師：西村 清亮 にしむら せいすけ

元(株)熊谷組土木事業本部統括部長

松本深志高校山岳部OB・深志16回卒

講師略歴

1944年 東筑摩郡本郷村(現松本市)浅間温泉生まれ

1969年 芝浦工業大学土木工学科卒

1969年 (株)熊谷組入社 札幌支店配属

29年間トンネル掘削現場に従事

1998年 名古屋支店土木部長

2000年 本社土木本部トンネル技術部長

2006年 本社土木事業本部統括部長

2009年 (株)熊谷組退職

担当したトンネル16本、施工総延長26km

＜施工したトンネル＞

函館本線神居トンネル、篠ノ井線白坂トンネル、石勝線紅葉山トンネル、長野新幹線五里ヶ峯トンネル、札幌バイパス朝里トンネル、長野道一本松トンネル、神川トンネル、鹿教湯トンネル、有尾トンネル、白山トンネル、発晴トンネル、読書トンネル他

平成7年度 土木学会賞技術賞受賞
長野新幹線五里ヶ峯トンネル

西村清亮氏は、熊谷組入社以来29年間をトンネル掘削現場に立ち、常に業界をリードしてきた「熊谷組のトンネル技術」を築き支えた、まさに「土にまみれた技術者」である。トンネル掘削現場の「切羽(きりば)」に張りつき、常に変化していく「地山」を見ながら育ってきた。

五里ヶ峯トンネル工事(長野新幹線)では掘削月進最大記録281mの達成をはじめ、内外のトンネル工事でいくつもの記録を打ち立てている。黒四・大町トンネル(昭和33年に完成)がモデルとなった映画「黒部の太陽」(石原プロダクション、昭和42年)では、切羽の撮影に協力した逸話もある。日本の代表的トンネル掘削工事100本以上に技術者として参画、自身が監督指揮した長野新幹線五里ヶ峯トンネルの完成により熊谷組は平成7年度土木学会技術賞を受賞した。今回は、これまでの経験を基に、未来のトンネル技術や「夢」を熱く語る。

- ◇ 熊谷組のトンネル技術の歴史
- ◇ 喧嘩しながら進化した山岳工法とシールド工法
- ◇ トンネル技術は経験工学―切羽の音と顔色を読む
- ◇ 長野オリンピック開催に間に合った長野新幹線―五里ヶ峯トンネル掘削戦略
- ◇ トンネルが開く未来の都市―大深度開発の可能性を広げた山岳工法

主催：松中・深志山岳部OB会 後援：松本市・松本市教育委員会

―お問い合わせ：松中・深志山岳部OB会事務局―

古幡開太郎 090-5414-0809 VEU00522@nifty.ne.jp

井上 禎夫 090-3145-5196 inouepc@janis.or.jp